

令和5年6月5日～6月11日までの全国の暑さ指数(WBGT)の観測状況 及び熱中症による救急搬送人員数と暑さ指数(WBGT)の関係について (令和5年度第6報)

1. 全国の暑さ指数(WBGT)の観測状況について

6月5日～6月11日の6都市(注1)の日最高暑さ指数(WBGT)の平均値は、「注意」を示す21以上25未満となりました。

6都市の10年間平均値と比較すると、期間の前半は暑さ指数(WBGT)は10年間平均値より低い日が多くなり、特に6月6日は2以上低くなりましたが、後半は高い日もあり、6月10日は1高くなりました(図1、表1参照)。

11都市(注2)では、東京、名古屋、高知、福岡、鹿児島で「警戒」を示す25以上になる日があり、那覇では常に「厳重警戒」を示す28以上になり、特に6月11日は「危険」を示す31以上になりました(表1、表2参照)。

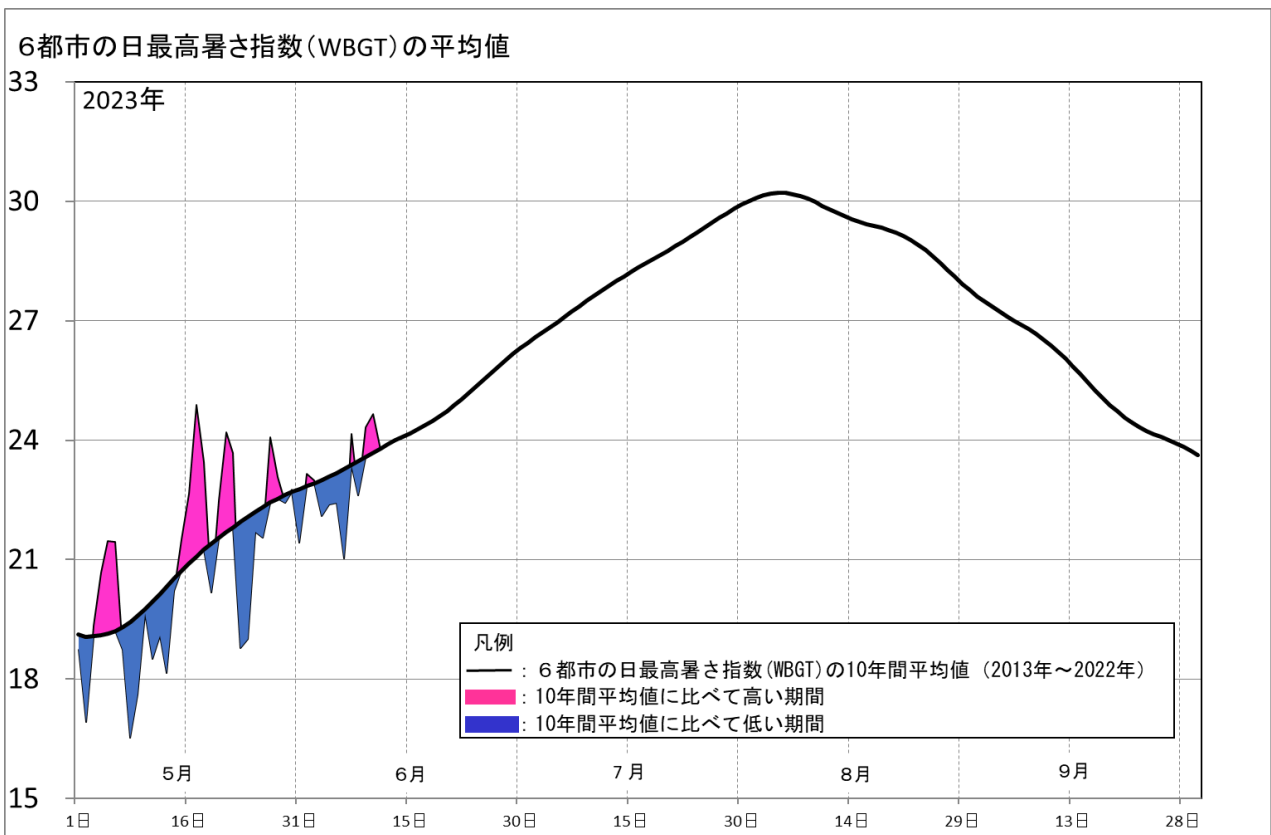


図1 全国の暑さ指数(WBGT)の動向と過去10年間平均値との比較

表1 全国11都市(注2)の日最高暑さ指数(WBGT)(6月5日～6月11日)(注3)

日	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	高知	福岡	鹿児島	那覇	6都市平均
5	14.9	22.8	22.0	25.3	21.6	24.1	19.9	21.7	21.7	24.6	28.9	22.4
6	20.5	23.6	22.7	22.9	21.4	20.9	17.7	17.6	20.6	21.4	29.6	21.0
7	18.5	24.3	22.6	25.3	25.2	24.0	22.2	25.1	25.7	26.0	30.0	24.2
8	22.8	23.5	24.8	25.3	24.0	21.6	19.9	19.8	20.1	24.4	29.1	22.6
9	17.8	19.1	22.4	23.1	26.4	24.3	23.1	25.7	26.6	23.6	29.2	24.3
10	20.6	23.8	24.4	25.7	25.9	23.9	23.1	22.4	25.0	20.9	29.6	24.7
11	22.6	21.2	22.1	23.1	23.3	23.3	24.0	24.1	26.8	23.7	31.1	23.8

注1 6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市

注2 11都市：札幌市、仙台市、新潟市、東京都、名古屋市、大阪市、広島市、高知市、福岡市、鹿児島市、那覇市

注3 表1、表2の値は速報値であり、年度末に発表される確定値とは異なる場合があります。

表2 全国11都市の6月5日～6月11日の暑さ指数(WBGT)超過時間数(注3)

超過時間数	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	高知	福岡	鹿児島	那覇
31以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
28以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45
25以上	0	0	0	7	7	0	0	5	12	2	144

ほぼ安全	注意	警戒	嚴重警戒	危険
21未満	21以上25未満	25以上28未満	28以上31未満	31以上

2. 6都市の日最高暑さ指数(WBGT)と熱中症による救急搬送人員数(全国)との関係

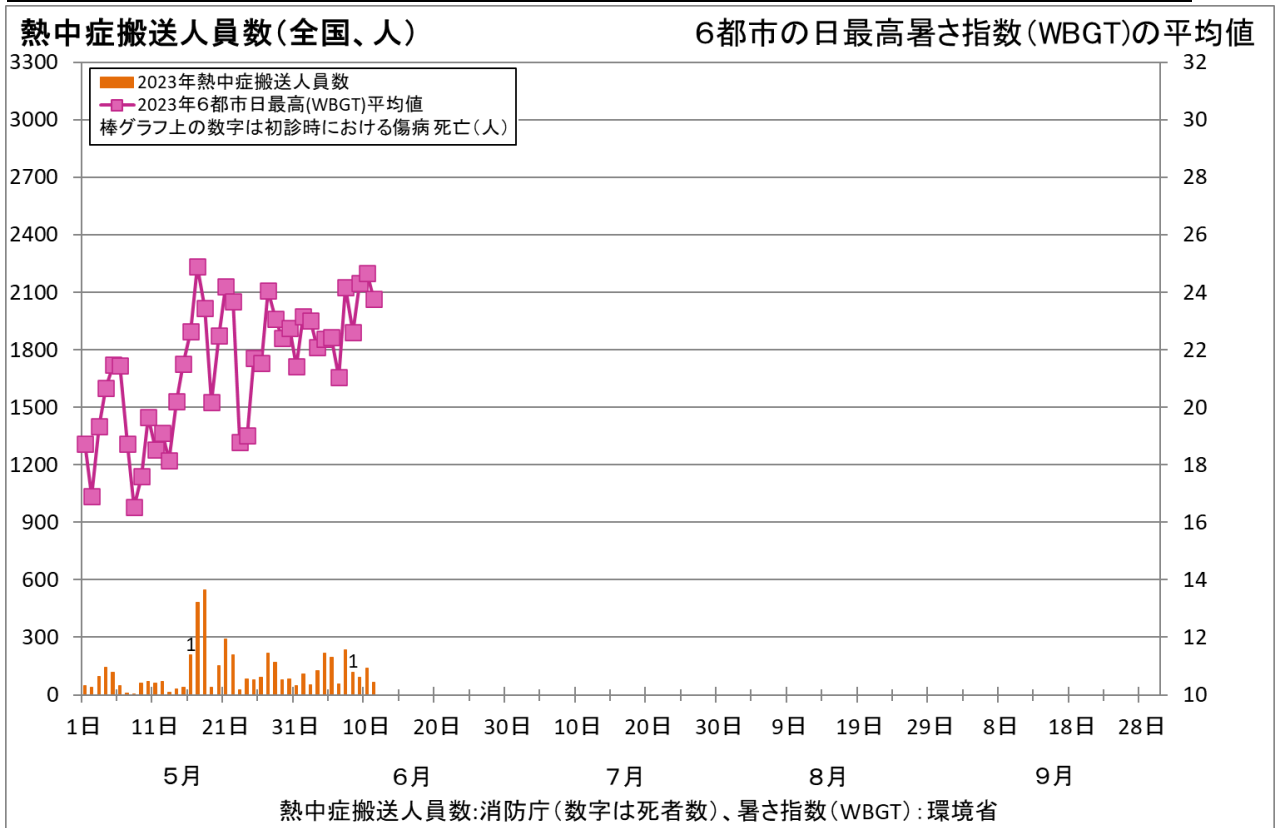


図2 6都市の日最高暑さ指数(WBGT)の平均値と熱中症搬送人員数の推移

6月5日～6月11日までの6都市(注1)の日最高暑さ指数(WBGT)の平均値は、「注意」を示す21以上25未満となりました(表1、図1)。

消防庁発表の速報によると、熱中症による救急搬送人員数は、多い日が6月7日の234人で、6月5日～6月11日の総数は900人(死者1名含む)となりました(図2)。

3. 全国の熱中症警戒アラートの発表状況

6月5日～6月11日の間、熱中症警戒アラートの発表はありませんでした。（表3）。

表3 全国の熱中症警戒アラート発表状況（6月5日～6月11日）

地方 ^{※1}	北海道	東北	関東甲信	東海	北陸	近畿
域内平均 ^{※2}	0	0	0	0	0	0
のべ回数	0	0	0	0	0	0
地方 ^{※1}	中国	四国	九州北部 ^{※3}	九州南部・奄美	沖縄	
域内平均 ^{※2}	0	0	0	0	0	
のべ回数	0	0	0	0	0	

※1：気象庁の地方予報区単位（別図参照）

※2：「地方内府県予報区の1週間ののべ発表回数」÷「地方内府県予報区数」
回数は前日17時、当日5時どちらかの発表で1回とカウント

※3：九州北部には山口県も含まれる

4. 今後の見通し(6/14 14:30時点)

6月16日までは、全国で「警戒」を示す25以上に、東北地方以南で「厳重警戒」を示す28以上に、小笠原諸島で「危険」を示す31以上になる地点がある見込みです。

気象庁の2週間気温予報（6月14日発表、6月15日～6月26日）によると、「北・東日本、近畿地方、中国地方の向こう2週間の気温は、暖かい空気に覆われるため高い日が多く、かなり高くなる日もあるでしょう。農作物の管理等に注意するとともに、熱中症対策など健康管理に注意してください。

四国地方、九州北部地方、九州南部、沖縄・奄美の気温は、向こう5日間程度は平年並か低いでしょう。その後は平年並か高いでしょう。真夏日となる所もある見込みです。熱中症対策など健康管理に注意してください。」となっております。

（参照：2週間気温予報 <https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/twoweek/?fuk=1>）

